



クラスタへの Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアの導入

リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Broker に変更されました。ただし、GUI およびインストール フォルダ構造と対応させるため、一部の NDB のインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/ Nexus Data Broker/ Nexus Dashboard Data Broker という記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

この章には、次の詳細が含まれています。

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーション ソフトウェアのアップグレード \(6 ページ\)](#)

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) クラスタをインストールするには、次の手順に従います。

始める前に

前提条件:

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) は、3 ノード クラスタをサポートします。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信できる必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を `config.ini` ファイルに持つ必要があります。

- クラスタを形成するには、すべての NDDDB インスタンスが同じ NDDDB バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。HA クラスタのパスワード保護セクション（*Cisco Nexus Dashboard Data Broker Configuration Guide*）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての NDDDB インスタンスは、同じ NDDDB バージョンである必要があります。

手順

- Step 1** Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- Step 2** 下方向へスクロールして、[ダウンロード (Downloads)] をクリックします。
- Step 3** [製品の検索 (Select a Product)] 検索ボックスに「Nexus Dashboard Data Broker」と入力すると、最新リリースの[ソフトウェア ダウンロード (Software Download)] 画面が自動的に表示されます。
リリース 3.10.4 のファイル情報: Cisco Nexus Data Broker ソフトウェア アプリケーション:
ndb1000-sw-app-k9-3.10.4.zip が表示されます。
- Step 4** Cisco Nexus Data Broker アプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- Step 5** Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを作成します。
たとえば、ホーム ディレクトリに、`CiscoNDB` を作成します。
- Step 6** 作成した NDDDB ディレクトリに Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルをコピーします。
- Step 7** Data Broker の zip ファイルを解凍します。
Data Broker ソフトウェアが `ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。
 - `runndb.sh` ファイル: NDDDB を起動するためのファイル。
 - `version.properties` ファイル: NDDDB ビルドバージョン。
 - 構成ディレクトリ: NDDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
 - `bin` ディレクトリ: 共通 CLI を含む NDDDB ファイルが含まれています。
 - `etc` ディレクトリ: プロファイル情報が含まれています。
 - `lib` ディレクトリ: NDDDB Java ライブラリが含まれています。
 - `logs` ディレクトリ: NDDDB ログが含まれています。

(注)

logs ディレクトリは、NDDDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- **plugins** ディレクトリ: NDDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- **work** ディレクトリ: Web サーバーの作業ディレクトリ。

Step 8 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

Step 9 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>

If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

Step 10 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1

IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

Step 11 ファイルを保存し、エディタを終了します。

Step 12 NDDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 5 から 11 を繰り返します。

Step 13 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDDB サーバーを起動します。

Step 14 プライマリ NDDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDDB サーバーを起動します。

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

始める前に

前提条件:

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDDB) は、3 ノードクラスタをサポートします。

- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信できる必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を `config.ini` ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスが同じ Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを `ndbjgroups.xml` ファイルに設定する必要があります。 *Password Protecting for HA Clusters* のセクション（*Cisco Nexus Data Broker Configuration Guide*）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスは、同じ Cisco Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

手順

- Step 1** Cisco Nexus Dashboard Data Broker プライマリ サーバーにログインします。
- Step 2** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。
- Step 3** [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成ファイルをダウンロードします。
- Step 4** `runxnc.xh -stop` コマンドを使用して、すべての Cisco Nexus Dashboard Data Broker インスタンスを停止します。
- Step 5** NDDB サーバーと NDDB デバイスの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、`/xnc/configuration` の `tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルのバックアップを作成します。
- Step 6** すべての NDDB クラスタ インスタンスで前の手順を実行します。
- Step 7** Web ブラウザで、`www.cisco.com` に移動します。
- Step 8** [サポート (Support)] > [製品 (Products)] > [ダウンロード (Downloads)] に移動します。
- Step 9** 製品とダウンロードの検索ボックスに「Nexus Data Broker」と入力し、検索応答リストから「ダウンロード (Downloads)」をクリックします。
- リリース 3.10.4 のファイル情報: Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェア アプリケーション: `ndb1000-sw-app-k9-3.10.4.zip` が表示されます。
- Step 10** Cisco Nexus Dashboard Data Broker のアプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- Step 11** Cisco Nexus Dashboard Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを構築します。たとえば、ホーム ディレクトリに Cisco Nexus Dashboard Data Broker を構築します。
- Step 12** Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを、構築したディレクトリにコピーします。
- Step 13** Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを解凍します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアは、`ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。

- `runndb.sh` ファイル: NDDB を起動するためのファイル。
- `version.properties` ファイル: NDDB ビルドバージョン。
- 構成ディレクトリ: NDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
- `bin` ディレクトリ: NDDB 共通 CLI を含む NDDB ファイルが含まれています。
- `etc` ディレクトリ: プロファイル情報が含まれています。
- `lib` ディレクトリ: NDDB Java ライブラリが含まれています。
- `logs` ディレクトリ: NDDB ログが含まれています。

(注)

`logs` ディレクトリは、NDDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- `plugins` ディレクトリ: NDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- `work` ディレクトリ: Web サーバーの作業ディレクトリ。

Step 14 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

Step 15 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

Step 16 次のテキストを探します。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>
```

```
If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

Step 17 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDB サーバーの IP で置き換えます。

IPv4 example:

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1
```

IPv6 example:

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

Step 18 ファイルを保存し、エディタを終了します。

Step 19 NDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 7～18 を繰り返します。

Step 20 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

Step 21 プライマリ NDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDB サーバーを起動します。

Step 22 プライマリ サーバーの NDDB GUI にログインします。

- Step 23** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] > [アクション (Actions)] > [ローカルで復元 (Restore Locally)] に移動し、以前にダウンロードした構成をアップロードします。
- Step 24** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、クラスタ内の NDDB のすべてのインスタンスを停止します。
- Step 25** NDDB サーバーと NDDB スイッチの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、手順 5 でバックアップした `tlsTrustStore` および `tlSKeyStore` ファイルを、すべての NDDB インスタンスの `ndb/configuration` にコピーします。
- Step 26** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。
- TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDDB サーバーを起動します。
- ```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password> --truststore-password <truststore-password>
```
- プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。
- Step 27** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、メンバー NDDB サーバーを起動します。
- TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDDB サーバーを起動します。
- ```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password> --truststore-password <truststore-password>
```

HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード

HA クラスタ化コントローラで TLS 証明書が有効になっている場合に、GUI を使用して Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) アプリケーションソフトウェアを集中モードでアップグレードするには、次の手順に従います。

手順

- Step 1** `https://server IP:8443` にアクセスして、既存の NDDB GUI インスタンスにログインします。
- Step 2** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] タブに移動します。
- Step 3** [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成を zip ファイルとしてダウンロードします。
- Step 4** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、現在の NDDB インスタンスを停止します。
- Step 5** NDDB インスタンスが停止したら、`/ndb/configuration` フォルダに移動し、`tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルを `local/common` フォルダにコピーします。

- Step 6** 標準の *Cisco.com* のダウンロードページから NDDB 3.10.4 ソフトウェアをダウンロードし、`config.ini` ファイルの「supernodes」構成を使用してクラスタモードを設定し、すべてのコントローラで `./runndb.sh -start` コマンドを使用して新しい NDDB 3.10.4 クラスタを起動します。
- Step 7** プライマリコントローラで、[管理 (Administration)]>[バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブに移動します。
- Step 8** [ローカルに復元 (Restore Locally)] をクリックして、先ほどダウンロードした設定ファイル（上記のステップ 3）をアップロードします。
- 設定が正常にアップロードされると、GUI に成功メッセージが表示されます。
- Step 9** `tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルを NDDB 3.10.4 の `/ndb/configuration` フォルダにコピーします（手順 5 で `local/common` フォルダにコピーしたもの）。
- Step 10** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、すべてのコントローラで NDDB 3.10.4 インスタンスを停止します。
- Step 11** `./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore` コマンドを使用して、プライマリ コントローラで NDDB インスタンスを開始します。
- 数分待ちます。準備完了 (*ready*) メッセージが表示されます。
- Step 12** `./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore` コマンドを使用して、クラスタの他のコントローラで NDDB インスタンスを起動します。
- 他のコントローラでインスタンスを開始する場合、（TLS キーワードを使用して）コマンド全体を再入力する必要はありません。標準の `./runndb.sh -start` を使用できます。
-

HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーション ソフトウェアのアップグレード

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。